

# 高知・須崎・宿毛港の 軍事利用は許さない 戦争をしない 外交努力で平和を



3月27日に県庁を囲んでおこなわれた「特定港湾」抗議活動

**不屈**

「不屈」  
No.598付録  
高知版No.443  
2024.4.1  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
高知県本部

発行責任者  
森岡 幸一  
TEL・FAX  
088-841-0075

政府は昨年末に、「安全保障関連3文書」を改訂し、中国による台湾有事を念頭に、九州・沖縄、中国、四国など約36カ所の空港・港湾を「特定利用港

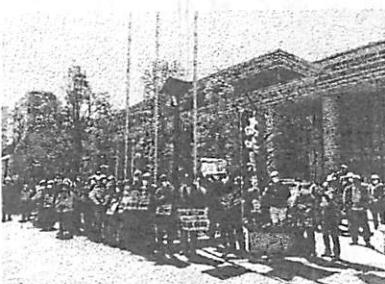
湾」として決定しようと高知県では、高知港（新港含む）、須崎港、宿毛港が「対象」とされ、この2月13日には高知市、須崎市、宿毛市への「説明」が行われました。

昨年11月には「築城基地（福岡）が攻撃された」と想定して大分・岡山空港が、「那覇基地が攻撃された」と想定して徳之島、奄美空港を利用して日米統合実働演習が実施され、岡山空港の演習には、陸・海・空の自衛隊員約3万人、米軍約1万人が動員されました。

ロシアのウクライナ侵略では、港街であるマリウポリ、オデッサ等が攻撃されましたが、有事の際、軍事基地の次の標的は、空港・港湾です。原発が攻撃されれば、日本は壊滅的となります。

岸田自公政権は、「専守防衛」から、「敵基地への先制攻撃」と、方針を大転換し、米軍の指揮のもとに、陸上自衛隊の南西諸島への展開、基地や民間空港の分散配置、基地の強靭化、避難民受け入れ、原発への攻撃被害も想定した訓練、その裏付けとなる軍事費の43兆円増を進めようとしています。港の軍事利用化を止め、平和を守ろう

高知県の「非核港湾決議」の立場に立って、港湾の軍事化を許さない、戦争準備ではなく憲法9条に基づく外交の努力で、国民・県民の命と暮らしを守る政治を作りましょう。



## 治安維持法と現代

24年春季号・国会議員請願活用号

—4月30日発行— 第47号

巻頭◆前川喜平・自民党の教育政策の功罪—国家主義と新自由主義がもたらしたもの

◆緊急事態改憲論の問題点 小澤隆

◆経済安保秘密法案の危険な仕掛け 井原 聰

以下

治安維持法下の闘いと抵抗の群像、同盟活動シリーズなど今季も力作満載です

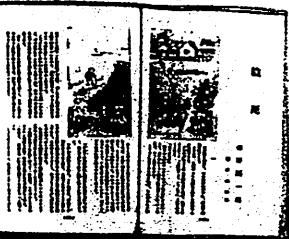
税金は、戦争準備ではなく、能登の震災復興、南海地震対策などを優先すべきではないでしょうか。

〔郷土の軍事化をゆるさない高知県連絡会から載〕

故 猪野 瞳氏 作品

## 埋もれてきた群像より

### 佐野順一郎《一》



佐野順一郎「絶死」。プロレタリア文学1932年臨時増刊号に掲載。

もう二十年近い前になるが、吉祥寺にひとり住んでいた佐野順一郎夫人の岩崎珠子をたずねたことがあった。「土佐プロレタリア詩集」づくりの資料あつめで『戦旗』復刻版刊行会や貴司山治宅、片羽登呂平宅その他をまわった折だった。国民救援会の森出四郎が案内してくれた。いまどちかつてそのころは、まだプロレタリア文化・文学関係の復刻もありすすんでいなかつた。

手持ちリストから欠落している作品を、『詩精神』『詩人』『文学案内』から拾い、借用して近くの店でコピーしたり、筆写したりの資料あつめだった。貴司山治宅では『文学案内』をみせてもらつた。その洋館は東京大空襲にも焼けずのこつていて、これが一丸三〇年代、楳村浩や佐野順一郎がやっかいになつたところだったかと妙な感慨があつた。岩崎珠子と佐野順一郎の出会いは、佐野順一郎が上京してからでてきて作家同盟の仕事を手伝つたりしていった。佐野順一郎は上京の一九三二年、「プロレタリア文学」臨時増刊号に反対して」などを書いていた。

プロレタリア作家から文壇への作家としての登場だつた。この「文芸」の前後数力月号の小説のおもな書き手は岡本かの子、深田久彌、井伏鱒二、芹沢光治良、小田嶽夫、葉山嘉樹たちだつた。「敗北者」は一九三〇年代前半の高知の非合法運動をあつかった重い作品だつた。このあと佐野順一郎は、岩崎珠子のかたるところでになり、それにふさわしい良心作をかいていった。岩崎珠子のかたるところでになり、それにふさわしい良心作をかいていった。佐野順一郎も、戦争文学になだれ

西村時衛との東京でのつきあいのはじまりは「敗北者の群」がでたところからだろうか。岩崎珠子は二人がよく酒をのみあい、話しあうさまなど記憶していたが、西村時衛は保高徳蔵の「文芸首都」の同人であり、そこに時代に抗していく文学評論、文芸時評などを西住恵でかいていた。佐野順一郎も『文芸首都』一九三八年三月号に「作家の日記」――

佐野順一郎は多くの作家が戦争のふかまるとともに、戦争文学になだれこんでいくなかで、そのかかわりを断ち切つていた。

佐野順一郎も作家同盟にかかわっていたから、そんなところから深くなつたようだつた。

佐野順一郎は「文芸」が解体していくなかで佐野順一郎は、貴司山治がだす『文学案内』に、「港の漁民」などの力作をかくようになつていく。そして

佐野順一郎は「文芸」一九三八年十月旨の「葉書隨筆」のなかに「最近『麦と兵隊』といふ火野葦平氏の日記を小説と思ひ違へ読んだが、これは饑長漫、重複、選擇のない現実の羅列」と皮肉をかき、西村時衛は「文芸首都」一九三九年四月号に火野葦平、上田広の作品は「懷疑が初めから顔を出さない」、「麦と兵隊」は戦争が行われてゐるのであって、戦争が考へられてゐるのではない」とかいていく。火野葦平の「麦と兵隊」を文学として認めない二人の議論などが、伝わつてくるような岩崎珠子の話だつた。

高知市民劇場「星をかすめる風」

# 日本人に強烈な歴史認識を

## 問う作品

森本 琢磨

去る3月25日と26日、演劇鑑賞団体・高知市民劇場の例会として「星をかすめる風」(青年劇場公演)が高知市内で上演された。治安維持法違反で捕縛され、刑務所の中で死を遂げた韓国人詩人・尹東柱(ユンドンジュ)をテーマとした作品であり、以前、本会報でもその告知を掲載した。ストーリー 자체はフィクションだが、史実をもととした内容となつており、韓国人作家であるイ・ジョンミョン氏の原作を日本劇作家のシライケイタ氏が舞台化したものだ。今回、その例会に参加した感想を少し述べたい。

この作品は、尹が投獄された福岡刑務所を舞台に展開され、囚人に暴力をふるつていた看守・杉山が何者かに殺される場面から始まる。



方で、囚人は死んで当然」と怒りたちは「あんな鬼看守を露わにし、

話に整合性が取れない。渡辺がさら

め多くの国々を苦しめた日

本帝国主義への怒りであり、それを二度と繰り返してはならないとい

う強いメッセージである。本

の個人的な犯行ではなく、明らかに国策

感想を少し述べたい。

た。(※こ

ななものだつた。(※こ

う民族への想いと良心に従つて行動しようとした若者の純粋な心情は、賛美されこそそれ罰せられるべきものではない」と書いている。ま

さにその通りであり、何の落ち度もない尹を処罰しえばならない尹の様子は分かつておらず、彼の死についても真相

はいまだ不明だという。遺

トも販売されていたので、

購入した。その中に、「詩人の楊原泰子氏による『尹東柱の詩と生涯』という記事が、治安維持法違反で捕まつた理由は、「判決文によると、

そこに推理小説や刑事ドラマにあるような謎解きの力

タルシスは無い。その理由は明白で、本作のサスペンス性はあくまで要素の一つであ

り、本題ではないからだ。こ

ものだつた。

会場では本作のパンフレットも販売されていたので、

焼かれ、遺骨は父に抱かれ

て故郷に帰つた。そして、1

948年に尹の遺作集が家

族や友人たちの手によって

出版されたことを皮切りに

顕彰活動が進み、今では韓

国を代表する詩人となつて

いる。

冒頭にも書いたように、本

作は韓国人による原作を日

本人劇作家が舞台化し、日

本の劇団によって演じられ

たものだ。昨今、韓流ブーム

等で日韓の文化的交流が盛

んになつてているが、一方で

「慰安婦」問題や微用工問題

を理由に韓国バッシングも

激しい。これは、加害の歴史

を知らない、直視しない日

本側の落ち度であり、この

ことを抜きにして、いくら文

化交流が進んでも、それは

無意味である。

それだけに、本作のよう

日本人に強烈な歴史認識を

問う芸術が日韓共同で作ら

れたことは、素晴らしいこ

とだと感じた。出演者やス

タッフの皆様に、敬意を表

日本近現代史を学ぶ

# 福岡ゆかりの「抵抗の群像」

## を森本講師に学ぶ

### 伊藤野枝

1895年(明治28年)1月21日 - 1923年(大正12年)9月16日。日本の婦人解放運動家、無政府主義者、作家、翻訳家、編集者。戸籍名は伊藤ノエ。かつて平塚らいてうが編集長を務めていた雑誌「青鞆」で活躍するも編集作業を放棄して休刊させ[1]、不倫を堂々とを行い、結婚制度を否定する論文を発表して戸籍上の夫である辻潤を捨てて大杉栄の妻、愛人と四角関係を演じた。その暮らしから世評に「わがまま」「奔放」と批判された。反面、現代的自我の精神を50年以上も先取りして人工妊娠中絶(堕胎)、売買春(娼妓)、貞操など現在においても問題として取り上げられている課題を題材とし、多くの評論や小説、翻訳を発表した。

1923年(大正12年)9月16日に発生した甘粕事件によって大杉らと共に殺害される。



日韓の近現代史学習会から数年経過し、再び歴史学習を始める機会を持つていました。今回、講師を引き受けてくれた方は森本さんです。前回もお願いしましたが、私が今回

も是非にと考えたのは「不屈」県版機関紙の投稿記事が掲載では勿体ない。皆で学習する事がいかに大事ではないかの思いで提案しました。

日程調整で3月21日(木)

も是非にと考

えたのは「不屈」県版機関紙の投稿

も是非にと考

ました。女性活動家としてジェンダー平等を先取りした行動は、今日の礎となっています。富国強兵を掲げ、軍隊を外国に送り出し戦争をした国は女性の権利も有りません。自由を求めて闘った野枝の生涯に心打たれる「野枝ファン」が多いのも頷けます。事務所近在で野枝ファンの方

方がいる事もでました。講演後の意見交換は続けて行こうと確認しています。次回は工夫も懲らし参加を呼び掛けたいと考えています。(森岡幸二)

☆財政

☆その他

☆女性部・青年部

☆学習講演会

○国会請願

○第一議員会館

○県本部総会

○四国ブロック交流集会

○編集後記

○3月27日の集会には200名が結集して、特定港湾受け入れの濱田知事への抗議の声をあげました。今後も撤回を求める闘いは続きます。(M)

福岡出身、伊藤野枝は国家権力による虐殺により28歳で命を落としました。女性活動家としてジェンダー平等を先取りした行動は、今日の礎となっています。富国強兵を掲げ、軍隊を外国に送り出

福岡出身、伊藤野枝は国家権力による虐殺により28歳で命を落としました。女性活動家としてジェンダー平等を先取りした行動は、今日の礎となっています。富国強兵を掲げ、軍隊を外国に送り出

日時

5月9日(木)

14時~

場所

平和資料館

草の家

## 県本部総会は6月22日(土)

御願いします。

※署名 2月目標 60

0筆)が未達成です。

4月から特別期間が始まりました。会員の皆様

の協力で2月目標を早期に実現目指します。

会員の皆様に署名を



○編集後記  
で検討中

○3月27日の集会には200名が結集して、特定

港湾受け入れの濱田知事への抗議の声をあげました。今後も撤回を求める闘いは続きます。(M)